



支援員だより

発行者：山口県・公益財団法人山口県ひとつくり財団

もくじ

- P 1 支援員さんの声
- P 2 支援員さんの声
- P 3 「狩猟制度」についてご存じですか(自然保護課)
- P 4 支援員研修会の開催結果



支援員さんの声

日々の観察の中で発見したことや活動での思いなどをお寄せいただきました。

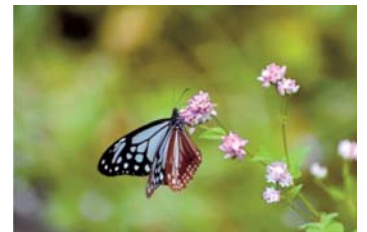
「支援員になって」

石田 咲子(防府市在住)

私が希少野生動植物種保護支援員に応募したのは平成17年のことでした。子どもの夏休みの研究としてモリアオガエルの観察と一緒に取り組んでいる中で、モリアオガエルの生態系についての学びが深まり、他の希少野生動植物についても学んでみたいと思ったことがきっかけでした。

なかなか、仕事も忙しく思うような活動ができていなかったのですが、退職を機にやっと支援員研修会にも参加できるようになりました。

今年度第一回目の「竜王山の自然観察会」では、アサギマダラ蝶と周辺の山野草について学びました。実は数年前、庭のフジバカマに飛来しているのを見かけ、以後気にかけていたのですが、その年しか観察することができませんでした。「旅する蝶アサギマダラ」がもう一度我が家にやってこないかと密かに思いをはせていたところ、今回の研修会が目にとまり、是非参加したいと思い申し込みました。



研修会の参加者の中には、ヒヨドリバナを植えてすぐに飛来したという方や、飛来した家と距離は近いのに全く来なかったという方がいらっしゃいました。聞けば聞くほど面白く、いただいた情報を元に活動していきたいと思っています。私の支援員としての活動は、こういった日々の興味と、それからいろんな研修会や催し物の情報、そして観察に充てられる日中の時間から成り立っています。

自分のペースで観察を重ねていければいいなと思っています。

「タシロラン、センバイアワモチとの出会い」

岡野 友紀(下関市在住)

2009年7月、近くの山で見たことのない白い植物が咲いていました。図鑑ですぐにタシロランと分かりました。葉緑素を持たない腐生植物ということで納得しました。偶然「レッドデータブックやまぐち」を見ていた連れが、「それ絶滅危惧Ⅰ-Aになるとるよ」と言うので、びっくり仰天。翌日、カウントしてみたら、750株強でした。以後、毎年カウントするようになり、2012年にその山が下関市公園緑地課の管轄になってからは、下関市に報告を続けています。



ちなみに、昨年は1,808株でした。これは、私がカウントしたものだけの数字で、それ以上咲いている可能性があります。ボランティアで登山道を掃除する人たちが、道沿いの落ち葉を完璧に掃くようになって、タシロランが出なくなった場所もあり、清掃しても落ち葉を残すよう説得したこともあります。

根茎があるので、多年草か?と思ったのですが、花が終わると、根茎もスカスカになり、数日で腐り、跡形もなくなってしまいます。人為的に栽培するのは不可能ではないかと思います。一見脆弱ですが、5cmもの石ころの層の隙間をクネクネ伸びて花をつけたり、たくましい一面もあります。花期は、6月末~7月初旬です。

登山者の中にも認知する人が増え、「今年もいっぱい咲きましたね」と声をかけてくれます。私は、「こんなに咲いているけど、絶滅危惧Ⅰ-Aなんですよ」と返しています。

センバイアワモチと出会ったのは1999年でした。「めずらしい貝がおるんよ」という誘いに乗って、現場で初めて見たとき、「貝？これが？」と驚きました。

センバイアワモチは肺呼吸であるため、水中では生活できないようです。また、高温・日射にも弱いので、夏の日の出時刻に観察に出かけます。汽水域の現場で、干潮時に水面から50cm～1m50cmくらいが生息域のようです。泥質に同化しているので、最初はなかなか見つけれませんでした。藻類を食べているようで、這った跡には糞塊がゴロゴロしています。夏は、やはり恋の季節。1個体が両方の生殖器を持っているのですが、2匹、時には3匹が連なって交尾しています。



まだ卵塊を見たことがありません。カウントしながら探すのですが、どうも日射を避けて、人目に付きにくいくぼみ等に産卵しているのかもしれませんが。多い時には、750個体くらいだったのですが、去年はわずか75個体でした。もっとしっかり調査するといけないと思っています。センバイアワモチは、汽水域を生息域にしているため、レッドデータブックに記載されていません。貝の先生は、センバイアワモチのそばにごろごろしていたオカミミガイも「これも珍しいんよ」と言っていました。

大変難しい作業だと思うんですが、新しいレッドデータブックでは、汽水域の貝類についても正しく評価され、記載され、広く県民に認識され、希少野生動植物が保護されるようになればいいなと思います。

「岩国地域の自然環境保護について」

NPO 法人錦川環境教育学会理事 守川 明夫 (岩国市在住)

支援員に登録し約10年になりますが、地域の自然環境について強い関心は持っているものの研修会に参加する程度で、支援員らしい活動は何もしていませんでしたが、ようやくその思いが具体的な形になります。

当地域の自然、環境、歴史、生息の場、生態系等について感心のある方々の情報交換、勉強会の場を設けるため、教育機関の岩国市科学センターの協力を得て、今年度末から一年間をかけ学習することになりました。

自然環境は人間の活動とともに変遷し、戦後の生活スタイルの急速な変化は、環境の急激な変化となり、物理的にも化学的にもダメージを受け、対応できない生物種は少数派になってきました。あるものは絶滅したり希少種になっています。その反面、適応した種は繁栄し、ますます希少種を追いやって行くことにも繋がっています。

岩国地域には、県下1,000m級の山々の大半があり、県下最長最大の錦川、温暖な柱島群島など多様な地勢を抱えていることから、山口県レッドデータブックに記載されているその多くが生息し、あるいはこの地域にしか生息していない種が多く存在します。



私どもでは、生物が生息する場である池沼、湿地、里山、草原などが減少しており、河川や海の生息環境の劣化など自然環境の変化が急速に進んでいることに憂慮し、今回新たに、自然環境の保護・保全（将来的には復元）について考え、できることから取り組みたいと思っています。

第一回目は、3月12日に岩国市科学センターにおいて、『岩国自然学習講座～地域の自然について学び考えよう～』と題して、自然と人とのかかわりについてのガイダンス的な講座を開催することにしています。

第二回目は、自然の素晴らしさに感動していただきたく、寂地山のカタクリの花の群生地への現地に出向くことを考えています。

地域の本当の宝を見直すきっかけになれるよう、地道に取り組めればと願っているところです。皆様のご支援、ご指導をお願いいたします。

- ① 自然は多様であること
- ② 自然と人間とのかかわりについて
- ③ 変化することをどう捉えるのか

等について、人それぞれの考え方があると思います。

が、人為的な変化の功罪（植林、放流、保護等についても）について考え直してみたいと思います。

「狩猟制度」についてご存じですか。

山口県自然保護課

近年では全国的にイノシシやシカなどの野生鳥獣が増加しています。これらは農林水産業へ被害を及ぼすだけでなく、希少な動植物も食害するなど生態系全体へも深刻な被害を及ぼしています。

狩猟には趣味の要素もありますが、一方では増えすぎた野生鳥獣やアライグマなどの外来生物を捕獲することから生態系保護の面においても重要な役割を担っており、これらはハンターの方たちが「山の番人」とも呼ばれる所以ともなっています。一般の方にはあまり馴染みのない「狩猟制度」ですが、今回はその概要についてご紹介させていただきます。

■狩猟の対象となる鳥獣は？

鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律において、狩猟は、「法定猟法により、狩猟鳥獣の捕獲等をする」と定義されており、狩猟鳥獣以外の鳥獣の狩猟は禁じられています。狩猟鳥獣については、国内の野生鳥獣約700種のうち、その生息数や農林水産業への影響などが考慮され48種類が定められています。

●狩猟鳥獣の種類

区分	鳥獣の種類
鳥類 28種	カワウ、ゴイサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、クロガモ、エゾライチョウ、ヤマドリ（コシジロヤマドリを除く。）、キジ、コジュケイ、バン、ヤマシギ、タシギ、キジバト、ヒヨドリ、ニュウナイスズメ、スズメ、ムクドリ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス
獣類 20種	タヌキ、キツネ、ノイヌ、ノネコ、テン（ツシマテンを除く。）、イタチ（♂）、チョウセンイタチ（♂）、ミンク、アナグマ、アライグマ、ヒグマ、ツキノワグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、台湾リス、シマリス、ヌートリア、ユキウサギ、ノウサギ

注1) 地域により狩猟鳥獣であっても捕獲ができない種があります。山口県では上表のうちキジ（♀）、ヤマドリ（♀）、ツキノワグマの捕獲を禁止しています。

注2) 山口県では「レッドデータブックやまぐち」に掲載された鳥獣（※下線部）は、狩猟の自粛をお願いしています。

■狩猟ができる時期は？

地域によって異なりますが、山口県では毎年11月15日から翌年の2月15日までが狩猟期間となります。

※ただし、農林業への被害が大きいイノシシ・ニホンジカについては11月1日から3月31日までと期間を延長しています。

■誰でも狩猟ができるの？

狩猟には、主として網やわな、猟銃を使う方法がありますが、法定猟具を使用する場合には、猟具の種類に応じた「狩猟免許」を取得し、狩猟を行う年に狩猟税を納付する必要があります。

●狩猟免許の種類

種類	使用できる猟具（法定猟具）
網猟免許	網（むそう網、はり網、つき網、なげ網）
わな猟免許	わな（くくりわな、はこわな、はこおとし、囲いわな）
第一種銃猟免許	装薬銃
第二種銃猟免許	空気銃

※山口県では、毎年7月から9月の期間に県内会場で狩猟免許試験を行っています。（平成27年は県内6会場で開催）

■免許があれば簡単に捕獲できるの？

残念ながら狩猟免許を取得しても、初心者の方には簡単に捕獲できるものではありません。イノシシはとて頭の良い動物なので特に難しいと言われています。

一人前のハンターになるためにはベテランの方の指導を受けることが一番の近道なので、県では県猟友会と連携して、新規免許取得者を対象とした研修会などを開催しています。



▲わな講習会の開催状況

●環境省「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」について

環境省では、一般の方たちへも狩猟が持つ魅力や社会的役割を知っていただき、減少する鳥獣保護管理の担い手を確保することを目的に、全国で「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」を開催しています。当フォーラムのホームページでは、狩猟の意義やハンターになるための手続きなどがわかりやすく解説されていますので、ご興味のある方は是非こちらをご覧ください。



【狩猟の魅力まるわかりフォーラム HP】 <http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort8/>

〈支援員研修会開催結果〉

〈第1回研修会〉

- ◇日 時：平成27年10月12日（月・祝） 9：30～16：00
- ◇場 所：きらら交流館、本山岬、竜王山周辺（山陽小野田市）
- ◇参加者：51名（県民32人を含む）
- ◇内 容

午前中は、竜王山公園で山野草やアサギマダラの観察会を行い、午後はきらら交流館で本山会の嶋田紀和氏による「竜王山及びその周辺の四季、自然について」の講義等を行った後、本山岬等に移動し、「くぐり岩」やハマセンダン等を観察した。ヒヨドリバナ等を植栽している花壇があり、数頭のアサギマダラを観察することができた。この日は朝から雨も降り、風も強かったので、アサギマダラが少なく、その後向かった別の場所でも数頭しか見られなかったが、本山小学校の児童がマーキングした蝶を捕まえ確認することができた。次に、公園内を山頂に向かって歩きながらこの時期に咲いているヒヨドリバナ、サケバヒヨドリ、サイヨウシャジン、シロヨメナ、ノコンギク、ヤマハッカ、イヌタデなどを観察した。

「竜王山周辺の自然について」の講義では、竜王山の自然の特徴は、海岸性植物と山地性植物が混在しており、山野草の種類と群落が多いことや草刈り等の人の手が入っている二次的自然であること。昆虫では、日本でも有数な生息地であるヒメボタルやアサギマダラが紹介され、アサギマダラが好む3種類の花を増やす取組（アサギマダラおいでませ作戦）を2009年より地元の本山小学校等と実施していることなどの説明があった。

次に車で移動し、市の天然記念物第1号になった「ハマセンダン」（木の周囲が5.2mの大木）や本山岬のくぐり岩などの奇岩などを観察した。



〈第2回研修会〉

- ◇日 時：平成27年11月15日（日） 9：30～16：00
- ◇場 所：岩国市中央公民館、岩国市城山国有林（岩国市）
- ◇参加者：14名（県民3人を含む）
- ◇内 容

午前中は、古市節分草保存会の橋本順子氏による「節分草自生地の保全活動等について」、山口森林管理事務所による「岩国市城山国有林について」の講義を行った。午後からは、森林インストラクターの橋本順子さんと金丸恵子さんの解説で、城山国有林（吉香公園から岩国城までの登山道周辺）での自然観察会を行った。

節分草は、2009年の発見以降、地元の人だけでなく外部の人（目、意見等）が関わり保全活動が広がっており、2010年2月から一般公開も始まった。

一般公開は、錦川清流線3両（今年2両）で行っており、全員座って移動してもらう為、1日120人（今年80人）限定（1両当たり40人）としている。

節分草の生活史（植生等）は分かっていない為、節分草の種子を蒔いて育てる実験を始めており、いろんな事が分かってきた。節分草は4月、一つの花に18

から20個程度の種を付け、発芽率は1年目で90%以上で翌年の1月には芽を出す（1枚葉）。2年目には節分草特有の葉の形になり4年目から5年目に花を付ける。1つの球根からどのくらいの花を付けるのか不明。

城山国有林では、登山道を歩きながら広葉樹林（照葉樹林）を観察した。ヒノキ、サワラ、カンザブロウノキ、ヤマモガシ、シイモチ、シリブカガシ、マテガシイ、タカノツメ、コシアブラ、イヌビワ、カゴノキなどの広葉樹が見られ、講師から木や葉の特徴などの説明を聞いた。特に、岩国城付近にある「フシノハアワブキ（あわぶき科）」は、城山国有林にしか見られない珍しい木であるとのことであった。



発行元：（公財）山口県ひとづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター
〒754-0893 山口市秋穂二島 1062 TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720
<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>

